

1) 留学生基礎力育成講座

①ねらい、目的

日本での生活に早く慣れてもらうため。

日本人との不要な摩擦が生じるのを防ぐため。

②実施方法

知らないがゆえに不利益を被る事柄や、よく留学生がしがちな誤りなどを具体的な事例をあげることで、「反面教師」「他山の石」として認識させる。

- 全10回、1週間に1回（金曜日）17:00～17:30（30分）、授業後に実施する。
- スピーカーは神部先生、真奈美先生、前田が交代で担当する。
- 通訳には、必ず鄭劍秋先生に入ってください。鄭劍秋先生が母国語で話すことは単なる通訳の役割ではなく、同国人として日本で身につけるべき事柄という認識をもってもらうことができる。先輩学生程度の通訳では、そこまでの説得力がない。留学生の大先輩であり、日本社会で働いている経験も長く、また何より募集の段階から学生の個々の事情を把握している鄭劍秋先生に話していただくことによって新入生の胸に真に迫ることができると考える。

	予定日	内容、テーマ、ポイントなど	備考
1	10月16日	「食事のしかたを考えてみよう」 はしの使い方、食事前後の挨拶の言葉など 食べながら歩かない	
2	10月23日	「身だしなみに気をつけよう」 服装、爪、ハンカチ	
3	10月30日	「掃除のしかた」 床のそうじ、雑巾 お風呂に水をためたままにしない	
4	11月6日	「約束を守る」 約束の時間に遅れない、遅れるときは連絡する	
5	11月13日	「トラブルに巻き込まれないため」 金銭の貸し借り、身分証明書、定期などの扱い方	
6	11月20日	「大阪案内」 日本に来て約1ヶ月、手軽に行ける、楽しめるスポットを紹介	
7	11月27日	「目的を思い出せ」 日本に来て2ヶ月近く。何のために日本に来たのか、その目的、自分の立場、両親や親戚からの期待などを改めて考	

		えさせる	
8	12月4日	「財務計画を立てる」 そろそろバイトを始める頃、バイトの収入、親からの仕送りなど、卒業まで卒業後の計画を考えさせる。	
9	12月11日	「アルバイトを始める前に」 無断遅刻、欠勤などは厳禁、すぐやめるのもタブーなど。	
10	12月18日	「引越しの前に」 不動産屋でのやりとりの注意、勝手に契約しない、学校に保証人になってもらう場合は、など	

③担当教師から見た2009年4月生の問題点

- ・宿題を自分でせず人のをうつす。
 - ・自分の頭で考えようとしない。
 - ・間違えたくないから発言しない。
 - ・先生に怒られないようにしておけばいいと思っている
 - ・自分の為にすることがわかっていない
(例：人の宿題を写して出す、わからないのにわかったふりをする、友達に答えを教えてもらってそのまま答える等)
 - ・掃除をさぼろうとする
 - ・教師にうそを言ってでもさぼろうとする。
 - ・人の話を聞かずに勝手なことをする。
 - ・なんと言っても聞かない。
 - ・他人の定期を勝手に使う。
 - ・定期の不正使用をする。
 - ・自分の能力を過信して、授業をきちんと聞かない
 - ・能力がないにも関わらず、授業を聞かない。
 - ・なんど注意されても、強情に聞かない。
 - ・「人によって能力が違うのだから、自分はできない」と言い放つ。
 - ・クラス授業なのに、周りの人のことを考えない（個人主義）
 - ・教師から確認しないと報告しない、事後報告が多い。
 - ・短期のアルバイトは報告しなくてもいいと勝手に判断する。
 - ・「中国が一番」を繰り返して、台湾の学生に命令する。
 - ・大金を机の上に出したままにする。
 - ・なんのために日本に来たか認識していない。
- 先週先輩たちの話を聞きましたね。
- 外国人が日本人との摩擦が起きないように起こらないようにすること。
- ・やってはいけないことをやってしまう→例；室内で帽子をかぶったまま 日本ではダメ

- ・やらなければいけないことをやらない→例；残りの汁をそのままゴミ箱に捨てる。

- ・摩擦が起きると、日本人と仲良くなれない、友達になれない
→研究生になれない、バイトができない、仕事が見つからない、日本人の恋人ができない。

- ・そうならないように、日本の社会で日本人とうまくやっていけるように
毎週、そういうことを食事、服装、バイトなどのことのテーマ別に分けて話します。

